

評価者	環境部長	石井 康則
-----	------	-------

◎ 評価対象分野・施策の方針

総合計画上の位置付け	分野	生活環境	施策の方針	海浜の環境保全
------------	----	------	-------	---------

1 市民意識調査結果

(1) 認知度

取組を知らない・わからないと答えた人の割合	平成26年度	19.6%	平成27年度	17.6%	平成28年度	17.6%	(回答者全体に占める割合)
-----------------------	--------	-------	--------	-------	--------	-------	---------------

(2) 妥当性

お金の使い方

	使いすぎ	ちょうどよい	足りない
必要以上の効果	0.2%	1.0%	0.0%
ちょうどよい	1.7%	51.0%	1.6%
効果不十分	3.1%	4.0%	12.3%

平成26年度

お金の使い方

	使いすぎ	ちょうどよい	足りない
必要以上の効果	0.7%	1.7%	0.1%
ちょうどよい	1.7%	51.4%	1.6%
効果不十分	2.3%	2.9%	14.0%

平成27年度

お金の使い方

	使いすぎ	ちょうどよい	足りない
必要以上の効果	0.4%	1.2%	0.4%
ちょうどよい	2.0%	53.8%	0.2%
効果不十分	1.6%	4.8%	13.1%

平成28年度

全体における位置(効果とお金の両方が「ちょうどよい」の割合)

<妥当性の分析>
 市民意識調査の結果から、80%以上の認知がされている状況である。業務の妥当性(お金の使い方、仕事の効果)はともに「ちょうどよい」の回答が前年度以前を上回り50%を超えている。業務の進め方については「現状のままで良い」と認識されている。今後も着実にこの業務を継続維持していく。

(3) 今後の進め方

	もっと力を入れるべき	現状のままで良い	力を入れなくて良い	無回答	全体
平成28年度	21.3%	54.5%	1.6%	22.6%	100.0%
平成27年度	24.9%	49.5%	1.9%	23.7%	100.0%
平成26年度	22.1%	51.7%	1.4%	24.7%	100.0%

2 内部評価

(1) 平成28年度の目標

①引き続き、市民等が安全で快適に過ごせる海浜が適切に保全されるよう、関係機関と連携して海岸美化の取組を進めていく。(環境-24)

(2) 事業評価結果一覧表(網掛けは重点事業)

整理番号	評価対象事業名 事業名	決算値(千円)		総事業費(千円)		職員数(人)		今後の方向性	
		平成27年度	平成28年度	平成27年度	平成28年度	平成27年度	平成28年度	事業内容	予算規模
環境-23	海岸清掃事業	15,610	15,644	23,241	23,258	1.0	1.0	b	B
環境-24	海浜保全事業	299	407	7,930	8,021	1.0	1.0	b	C

(3) 主な実施内容

<p>【主な実施内容】</p> <p>①サーフ90ライフセービング支援業務を行った。(環境-24)</p> <p>②公益財団法人かながわ海岸美化財団と連携し海岸清掃事業を行った。(環境-23)</p> <p>③ごみの散乱防止の普及啓発としてクリーンアップかまくら(海の部)を年2回(春・秋)行った。(環境-23)</p> <p>【実施できなかった事業とその理由等】</p>
--

(4) 平成28年度の取組の評価

効率性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な事業費・人件費で執行できていたか	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 要改善
妥当性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、妥当(適切)な取組であったか	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 要改善
有効性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な成果が得られていたか	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 要改善
公平性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、受益機会が偏っていない(適切な)取組であったか	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 要改善
<p><上記評価の理由、改善を要する点の具体的内容等></p> <p>公益財団法人かながわ海岸美化財団と連携し、海岸清掃事業を行うことにより、海岸に打ち上げられた漂着ごみや観光客が出した海岸のごみの清掃回収業務を行い、きれいな海浜の保全に努めている。また、ごみの散乱防止の普及啓発としてクリーンアップかまくら(海の部)を実施して、美化意識の向上に努めている。</p>			

3 評価結果や市民意識調査結果をふまえ、施策の方針等としての、今後の方向性

<p>散乱ごみのない良好な海浜を保つためにも、定期的な清掃を継続して実施していく。海浜保全事業についても、活動団体及び県や3市と広域連携により実施していく。</p>
--

4 平成29年度の目標

<p>①市民や来訪者等が安全かつ快適に過ごせるよう神奈川県等と連携して海浜の保全を適切実施し、海岸美化の取組を進めていく。</p>

5 主な事業における指標(目標ごとに1つ設定)

整理番号	事業名												
指標の内容	当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31	備考				
		目標値											
		実績値											
		達成率											

参考 前年度外部評価結果への対応

鎌倉市民評価委員会からの指摘
課題

・市民等が安全で快適に過ごせる海浜が適切に保全されるよう、関係機関等と連携して海岸美化の取組を進めていくことが求められる。

・来訪者(市民以外)の「マナー向上対策具体案」に関し、特に、海浜利用者のマナー向上に対する取組が見えない。

・日常は美化が保たれているが、イベント後・悪天候後の海岸美化の対策が求められる。

⇒
・海浜の適切な保全とはどういうことかが分からない。浜辺のクリーンアップ活動は確かに海岸の環境保全ではあるが、美化の推進がその全てではないと思う。「保全」という言葉の持つ意味から、もっと「安全性」をテーマに掲げた事業展開が求められる。

・海浜の保全と安全な活用は県の管轄部分でもあるため、市単独での検討が限られる。県や関係機関、団体と連携して、効率的な運用が図られるよう検討が求められる。具体的な関連機関との検討内容がよく分からない。(記述内容のほとんどが、関係機関、団体と連携して、総合的な対応について、協議となっている。)

提言

・マリンスポーツ事業者や漁業関係者との協業による事業も主になっていただきたい。

⇒
・海浜のごみが主に市民によるものなのかが疑問である。海岸へ来る人から清掃に要する費用を負担してもらえるような仕組みを構築すべきである。例えば、海岸への観光客から多くの利益を得ている店などは、率先して店管理のごみ箱を設置するなど。

・今回の稲村ガ崎の一件を反映し「環境汚染防止事業」とも連携していくべきである。

指摘への対応、コメント等

今後とも海岸の管理者である神奈川県等と連携して海岸美化の取組を進めてまいります。

海岸利用者に対し、ごみの持ち帰りや適切なごみの排出などマナーの向上に資する周知啓発に取り組んでいきます。

海岸を利用するイベントの主権者に対し、イベント実施後の清掃を適正に実施するように周知・啓発を図ります。また、台風等の悪天候後には海岸に大量ごみが漂着することから、清掃事業者(かながわ海岸美化財団)と連携して清掃の充実を図ります。

⇒
ご指摘のとおり海岸の美化、清掃だけでなく、海岸の保全や適正な利用については、海岸の管理者である神奈川県と連携して事業を進めてまいります。またマリンスポーツ事業者等と協働により、春と秋にクリーンアップかまくら市内一斉清掃活動として海岸清掃を実施するなど、海岸の美化の推進を図ります。

海浜保全事業の事業内容を市民に具体的なかたちで理解できるように、事業内容の周知や啓発を図ってまいります。

提言に関するコメント等(総論)

⇒
海岸清掃事業は、海岸への漂着ごみを清掃の対象としている事業です。海岸への観光客の大半が海水浴客であることから、観光部門と連携した対応を進め、海岸美化の取組を進めてまいります。

鎌倉市民評価委員会の評価

《評価できるところ》

- ・公益財団法人かながわ海岸美化財団と連携し、海岸に打ち上げられたごみや観光客が出した海岸のごみの清掃事業を行うことにより、きれいな海浜の保全に努めている。
- ・ごみの散乱防止の普及啓発としてクリーンナップ鎌倉を行った。

		評価の内訳						⇒	委員会の評価	
取組	↗	1	↘	0	→	7			→	
効果	○	0	△	1	—	7		—		

《課題》

- ・「保全」である以上、美化に努めるだけでなく海浜が安全であるようにする事業の取組を関係各所と連携を図って取り組んでほしい。
- ・「海浜散乱ごみ」の増減状況が不明である。量的把握はしていないのか。指標にも無いので評価不能である。
- ・海あり山ありは鎌倉の特徴である。海は漁業、観光、自然景観と市民にとっても大切にしたい。積極的な海の活用を事業に組み込む施策を望む。
- ・市民等が安全で快適に過ごせる海浜が適切に保全されるよう、県や関係機関、団体等と連携して海岸美化を取組の進めていくことが望まれる。
- ・清掃も大事だが、保全の取組の効果が見えていない。ごみ散乱防止の普及啓発は、どれ程の効果を得たのか。ごみの減量や清掃時間が短縮されるようになった、などの指標がないと、事業の効果があつたか分からず評価できない。

《提言》

- ・キャンプ場等、「ごみ完全持ち帰り」に対する国民の意識は定着傾向にある。「ごみ完全持ち帰り宣言」「ごみ箱撤去」は無理だろうか。全国海浜地区での好事例を参考にされたい。
- ・海岸清掃事業は地域住民、海を利用するサーファー達が常に清掃活動を行っている。陰の力を評価していくことが必要である。
- ・マリンスポーツ事業者や漁業関係者達との連携・支援で行っていきとよいのではないか。
- ・海岸への来訪者は観光客が多い。従って今後も観光部門などと連携した対応、取組を進めてもらいたい。

《質問》

- ・「関係機関等との連携」というのがよくわからない。具体的にどのような連携であるか。また「海浜が適切に保全されています」とあるが、適切とはどういう状態をいうのか。